



天然記念物 谷川地区

民家敷地内に長さ約40mと約35mの方位の異なる2本の断層が、約40度で交差して現れた。この2本は横ずれ方向の異なる「共役断層」ともいい、国内で間近に見学できる例は珍しい。

現在、地面のずれや被災した建物を地震直後に近い状態で保存するために整備をしており、その現場を公開中。また、駐車場周辺も展望広場として整備をしている。



天然記念物 堂園地区

堂園池に隣接した農地に約180mにわたり断層が表出。水平方向のずれにより、あぜが約2.5m右横ずれし、クランク状に曲がったように見える。

付近には、横ずれした水路も残されている。

地表に現れた断層も
日本で断層が地表に現れる大地震は、10年に1回程度。熊本地震では地震動を伴って、北東に延びる長さ約30kmの地表地震断層が、甲佐町から南阿蘇村にかけて現れました。
町内では、平成30年2月13日付けで国の天然記念物に指定され、町が保存・活用を進めている杉堂・堂園・谷川地区の他、地区によって保存・活用されているところが現在も残っています。



天然記念物 杉堂地区

潮井神社境内に長さ約8m、落差約70cmの断層が地表に現れた。断層を境に参道石段は右横ずれし、本殿の隣のご神木は根元から倒れている。

町道横町線

断層が地表に現れたことによりずれた側溝を残したまま、新しい側溝が作られている。



平田 消防積載車格納庫

格納庫内を断層が横切っている。熊本地震・平田震災遺構保存会が、見学ガイドを行っている7つの震災遺構の1つ。



はまだ まさゆき
濱田雅之さん(平田下)

益城町だからこそできる断層の保存・活用に取り組みたい

今回、地域で保存・活用していくことについて大学にも協力いただいた布田川断層帯田中地区の調査溝は、地下の断層を見て学ぶことができ、防災や科学教育の面からもとても貴重なものです。

屋根や説明看板を設置するなど、町民をはじめ全国から多くの方が訪

れる場所にすることが、田中地区そして益城町の地域おこし、地域づくりのきっかけになることを願っています。一緒に保存・活用に取り組んでくれる人がいれば、本当にうれしいです。

興味がある人は、お気軽にご連絡ください。 ☎ 090 - 7152 - 4569